

今月のおすすめ図書

◆一般図書

ルーズリーフ手帳の作り方



マルマン／著 KADOKAWA

文具メーカーのマルマンが SNS で発信したアイデアを元に、ルーズリーフを使った8つのオリジナル手帳の活用術を紹介した一冊です。

十二支妖異譚



福井栄一／著 工作舎

古典文学に掲載された、十二支の生き物達に関する説話の数々。中でも蛇の話が159話中34話と最多なのは興味深いところ。扉絵のカメラもとても魅力的。

♥児童図書

おかしなゆき ふしぎなこおり



片平孝／写真・文 ポプラ社

寒い日こそ、外へ出かけてみよう。冷たい空気と水がつくる、美しくも不思議で、大迫力の雪と氷の世界の写真絵本です。

ピーターラビット全おはなし集



ビアトリクス・ポター／作・絵 いしいももこ、まさきりこ、なかがわりえこ／訳 福音館書店

今年没後80年を迎えるポターの代表作、ピーターラビットのおはなしを全話まとめた1冊。彩色の美しい挿絵も堪能できます。

ぶらり らいぶらり

米子市立図書館からのお知らせ

米子市立図書館 (☎22-2612 FAX22-2637)

開館時間 平日：午前9時～午後7時

土・日・祝日：午前10時～午後6時

今月の休館日 毎週月曜日、31日(月末資料整理)

郷土資料室・特設文庫をご利用ください

図書館2階の郷土資料室には、米子の歴史・自然・文化・産業などを知ることができる、図書や新聞・雑誌など約2万冊を所蔵しており、どなたでも見ることができます。

また、郷土ゆかりの人物の著作である小説・日記・論文・研究書など貴重資料を特設文庫として設置しています。生田春月(米子市生まれの詩人・翻訳家)・大江賢次(旧・溝口町生まれの作家)に加えて、このたび新たに藤澤武義(米子市生まれ・米子を拠点に非戦と平和を唱えた無教会主義キリスト者)文庫も開設しました。

この機会にぜひ、図書館2階へお越しください。



今月の催し (☆印は要事前予約)

「おはなし会」

▽木曜おはなし会(ほしのぎんか・火曜の会、図書館職員)(☆)

毎週木曜日 午前10時40分

▽おはなしかご(米子おはなしかご)(☆) 21日(土) 午前10時30分

▽夕方おはなし会(図書館職員)(☆) 10日(火) 午後4時

「各種講座」

▽つつじ読書会「フェルメールとオランダ黄金時代」中野京子著(初めの方☆) 7日(土) 午後2時

▽楽しく漢文に学ぶ会(初めてのの方☆) 8日(日) 午後1時30分

▽いきいき長寿音読教室(☆) 10日(火) 午後3時、11日(水) 午前10時30分

※2月の予約は2月1日(水)受付開始

▽伯耆文化研究会「上淀廃寺再考」中原齊さん、「博労町遺跡の発掘成果」弓ヶ浜半島における人々の営み「京嶋覚さん」

14日(土) 午後1時30分

▽百人一首を読み解く(☆) 14日(土) 午後1時30分

▽古文書研究会「多比能實知久佐ほか」 28日(土) 午後1時30分

▽鳥取大学サイエンスアカデミー 28日(土) 午前10時30分

「2階ギャラリー」

▽彼岸花の里俳句・フォト俳句コンテスト作品展 21日(土)～29日(日)



米子水鳥公園の指導員(レンジャー)が
日々の活動をご紹介します!

米子水鳥公園 レンジャー通信

文/米子水鳥公園統括指導員 桐原 佳介

園内で雪解けを待つ
コハクチョウ



クロガネモチの実を食
べるシロハラ

雪の日は外出を控える方が多
いかもかもしれませんが、絶好の野
鳥観察のチャンスでもありま
す。雪が積もると一面が真っ白
になり、鳥の姿が見つけやす
くなります。また、厳しい寒さに
耐えるため、鳥たちが食べ物探
しを最優先するので、普段より
も警戒心が弱まり、間近で観察
できることが多いのです。

雪の日の野鳥観察

米子水鳥公園では、雪の日も
暖房が効いた室内から快適に鳥
を観察できます。例を挙げると、
積雪が多い日は、コハクチョウ
は田んぼに出かけるのを諦め、
一日中園内でのんびり過ごしま
す。ネイチャーセンター正面の
小鳥で眠っているカモたちは、
背中に雪が積もって雪だるまの
ようになっています。

木陰にはシロハラなどの小鳥
が隠れて雪を避けていたり、ク
ロガネモチの木には、赤い実を
食べにヒヨドリやシロハラ、ツ
グミなどが入れ替わり立ち替わ
りやってきたりします。さら
には、毎年見られないベニヒワな
どの珍しい鳥がいることもあり
ます。

雪道に注意していただき、ぜ
ひ、雪の日の野鳥観察にお越
しください。

美術館通信

特別企画展 みつたはるお 満田晴穂 JIZAI

会 期 1月22日(日)~2月26日(日) 水曜日休館

本展は、江戸末期から明治にかけ、甲冑職人らによつてつくられた自在置物(金属などを素材とし、昆虫や蛇、甲殻類などの生きものをかたどった工芸品)を継承する作家として国内外で活躍している自在置物作家・満田晴穂(1980年米子市生まれ)の美術館での初個展です。満田は東京藝術大学在学中に自在置物師の富木宗行とみきむねゆきに師事し、現在は横浜を拠点に国内外で精力的に作品を発表しています。昆虫や爬虫類、甲殻類といった生物をモチーフに、体の各部までも本物同様に動くように再現された作品は、命を吹き込まれ、今にも動き出しそうな存在感です。

伝統的技術を継承しつつ、さらに進化させてきた満田の驚異の超絶技巧を、ぜひこの機会にお楽しみください。
☎ 米子市美術館 (☎ 34-2424 FAX 33-0679)



じざいあまみのごびりくわがた
《自在奄美鋸鋏形》
2021年 銅、真鍮、青銅 7.0x5.0x3.0 (cm)
レントゲン藝術研究所準備室 ©2022